

令和6年度 ほどほどの会

日時:2024年9月17日(火)15:00~17:30

場所:常盤台病院

参加者:田中(わおん)、藤井(常盤台病院)、芳垣(区役所)、田村・早川(基幹相談支援センター)、霜島、新井田(あかね工房)、佐藤若(生活支援センター)(敬称略)

【議題】

1. 常盤台病院 OT との協働活動

①生活教室

次回、10月に参加予定

→プログラムの確認と日程調整中

②出張あかね工房

あかね工房利用者さんより、常盤台病院へ出向き実体験の報告会

日時:9月17日(火)13:30~14:30

・実施報告

あかね工房利用者さんより:常盤台デイケア利用経験のある方から「懐かしかった、楽しかった」と笑顔が見られた。緊張したが参加者の役に立ててよかった、もっとうまく話がしたかったとの感想があげられた。

病院より:退院の近い方、見通し立っていない方など様々だが、どの立場の方でも出てよかったと思える会になっていた。参加者はOTスタッフが考えている(病状悪化の心配がない方、地域移行の進む可能性が高い方)

→いずれは病院からあかね工房に出向いて作業体験ができるとうい。院内作業はネットワークの会の他事業所でも回しながら継続し、ゆくゆくは他の区内事業所も交えられるとうい。

病院参加者の中で退院の近い方、そうでない方をピックアップしていただき、終了後グループ分けしたりで振り返りができるとよい。

インタビューの中で退院するまで不安だったこと(住まい、お金)など、参加者の気になったキーワードが集められると次回企画に活かしやすい

2. ほどほどの会の普及啓発について

〈地域の援助者を知ってもらうためのアイデア〉

・協働活動として「地域資源を知ろう」など企画し、院内の年間計画に組み込んでもらう

・社会資源紹介チラシやガイドブック作成など、資源にアクセスしやすい方法を考えていく。障害に限らず高齢分野も含めて啓発していきたい。

チラシについては、担当者の変更などにより更新する必要がない情報がよい。見開きサイズで、生活の場・通所の場など写真付きで紹介する。イメージとしては、看護師が患者さんとのコミュニケーションツールに使用できる、相談室に繋げる入口になるようなもの。

※各自でこれまで作成していた資料があるか確認する。社協でも作成しているかもしれない。

→各自使用している資料など

精神保健福祉の案内・保土ヶ谷区版、福祉のあんない、センター紹介動画など

・チラシ作成のイメージ

内容：住まい、通所、お金、病気、相談の領域に分け、一言紹介

デザイン：出張あかね工房の説明スライドを参考に、見開きA4サイズで手に取りやすい形

・アセスメントシートの見直し

→会の取り組みを院内で啓発する目的でも使用していけるとよい

各々のケースで使用してみて共有する。

特記事項には、弱い点をどう補うかの手立てを記入する。

3. ケース検討

〈常盤台病院〉

①

76歳 女性 妄想性障害、高血圧 拒薬傾向 生活保護受給（保土ヶ谷区）

ADL が高く、介護保険は適用できていない。

→生保の病状調査があったが、本人生保受給している自覚なく拒否、実施できず。長男を絡めるべく打診したが具体的な日程調整には至らず。ひとまず長男と本人で電話をしてもらうことは了承した。

・自宅退院が難しいことを伝えてよいか主治医へ確認し、案として生保 CW から言ってもらえるのもありか

・養護老人ホームも検討できそうか

・この先本人の意向は変わらないと思われる、病院で看取りをするまでの覚悟なのか

・ご本人の権利擁護のためにも自宅以外の選択肢があることは伝えていきたい、医師はあくまで本人の意向を主張する姿勢のため、本人側に立った見立てであることを伝えられるとよいか。

②

88歳 男性 双極性障害 金沢区で妻、次男と同居だったが妻の具合悪く、自宅への退院は拒否

ADL 自立しているが誇大妄想あり、服薬中断

家族が本人と面会した。家族の心配としては同居後に散財してしまうこと。本人は飲酒できないのであれば単身生活したい、施設は希望しない。

→ひとまず自宅外泊し家族との様子を見ることとなる。

4. その他

次回：2024年10月15日（火） 15:30～17:00 場所：港北病院